



Title	奥の細道ところどころ (三)
Author(s)	小島, 吉雄
Citation	語文. 1951, 4, p. 26-31
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68388
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

(三十一頁よりの続き)

補遺

「そぞろ神」について、東京の鈴木知太郎氏から、次のやうな用例を教示せられた参考までに、掲げておく。

「捨いしはすろ神にざそはれて、夜屋なく逃て、江戸にここかしこと、わた

らひわざしらねば、力量にやとはれ、

角力に立交りたり」(古典文庫所収「春

雨物語下巻」捨石丸)

また、京都の浅田善二郎氏からは、「あ

りき神」の用例について、左の如く示教が

あった。

ありき神ついでには今日も桜狩 維舟

(時勢粧)

ありき神や取つく四方の花見家 直宅

(五条之百旬)

陽炎や猫にもたかる歩行神 一茶

(七番日記)

右、両氏に対して、厚く謝意を表する。

—大阪大学教授・文博—